

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

年間3,000頭以上を解体処理し、ジビエ利用量全国4位の鳥取県の7割を処理する中心的な施設。安全・安心かつ上質なジビエを県内外100者以上へ提供するほか地元スーパーではシカ肉を通年販売、県内小中学校の給食材料にも供給してジビエの普及、食育を推進。

獣肉解体処理施設わかさ^{にく}29工房

主な取組

（指定管理者：猪鹿庵^{じびえあん} 代表 河戸^{かわと} 健^{つよし}）
わかさちょう
鳥取県若桜町

- 年末年始を除く360日稼働しており、持ち込まれたニホンジカ・イノシシの全頭受け入れを実施し、地元の若桜町・八頭町で捕獲されるニホンジカでは7割以上、イノシシで約4割、ニホンジカとイノシシの合計では約7割を、わかさ29工房で処理、利用。
- 施設の衛生管理の向上を目的に、鳥取県内のジビエ処理施設として初めて、県版HACCP適合施設認定を取得（食肉処理業：H29.6.2）、エゾシカ以外のニホンジカの処理施設でのHACCP認定取得は当施設が日本初。併せて、国産ジビエ認証も取得（鳥取県内初：R1.7.3）。
- 地域おこし協力隊やジビエ処理施設運営希望者等を受け入れ、衛生管理の重要性等を含めた解体処理の技術、ノウハウを伝える人材育成を行っており、経験者から実際に解体処理施設の運営者も誕生。
- わかさ29工房を中心にジビエ料理の提供、ジビエ精肉・加工品の販売、シカ革製品や角を使った工芸品の製造・販売等複数の店舗が集まって、継続的にジビエ利用を推進する地域が形成。

【捕獲鳥獣利活用率】

取組開始前 平成25年度：7.0% → 令和3年度：66.6%